（削る）

れ、エタノールを標線まで加えて250mLとする。この溶液15mLを全量ピペットを用いて量り、以下試料溶液の場合と同様に操作して標準液とする。試料溶液及び標準液につき、水酸化カリウムのエタノール溶液（１→500）を対照液として、波長430nm付近の極大波長における吸光度A_T及びA_Sを測定する。

ナイカルバジン（$C_{19}H_{18}N_6O_6$）の量（mg）

＝ナイカルバジン標準品の量（mg）$\times\frac{A_T}{A_S}\times 2.5$

２―ヒドロキシ―４，６―ジメチルピリミジン　試料原液４mLを全量ピペットを用いて量り、250mLの全量フラスコに入れ、ジメチルホルムアミド・エタノール混液（１：１）を標線まで加えて250mLとする。この溶液10mLを全量ピペットを用いて量り、50mLの共栓付試験管に入れ、新たに調製したスルファニルアミド試液10mLを加え、混和する。これに新たに調製した亜硝酸ナトリウム溶液（１→50）２mLを加え、密栓し、混和し、65℃の水浴中で15分間加温した後、流水で冷却して20分間放置し、試料溶液とする。別に、標準原液５mLを全量ピペットを用いて量り、250mLの全量フラスコに入れ、ジメチルホルムアミド・エタノール混液（１：１）を標線まで加えて250mLとし、以下試料溶液の場合と同様に操作して標準液とする。別に、ジメチルホルムアミド・エタノール混液（１：１）10mLを試料溶液の場合と同様に操作し、空試験液とする。標準液及び試料溶液につき、空試験液を対照液として、波長540nm付近の極大波長における吸光度A_S及びA_Tを測定する。

ナイカルバジン（$C_{19}H_{18}N_6O_6$）の量（mg）

＝ナイカルバジン標準品の量（mg）$\times\frac{A_T}{A_S}\times 2.5$

(イ)　保存の方法の基準

遮光した密閉容器に保存すること。

(132)　ハロフジノンポリスチレンスルホン酸カルシウム

ア　製造用原体

(ア)　成分規格

含量　本品は、乾燥した後、定量するとき、ハロフジノンポリスチレンスルホン酸カルシウム（$C_{16}H_{17}BrClN_3O_3$・Calcium Polystyrenesulfonate）95.0％以上を含む。

物理的・化学的性質　本品は、淡黄褐色～茶褐色の粉末で、臭いはほとんどない。

確認試験

①　本品0.2ｇ（0.15～0.24ｇ）を量り、６mol／Ｌ塩酸試液20mLを加え、30分間かき混ぜた後、遠心分離する。上澄液10mLを量り、メタノール10mLを加え、試料溶液とする。別に、臭化水素酸ハロフジノン20mg（19.5～20.4mg）を量り、６mol／Ｌ塩酸試液・メタノール混液（１：１）100mLを加えて溶かし、標準液とする。試料溶液及び標準液それぞれ10μLずつを量り、薄層クロマトグラフ用シリカゲル（蛍光剤入り）を用いて調製した薄層板にスポットする。次に、クロロホルム・メタノール・アンモニア水混液(90：10：１)を展開溶媒として約15cm展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線（主波長254nm)を照射するとき、試料溶液及び標準液から得たスポットは、濃紫色を呈し、これらのRf値は等しい。